

第3表 樹 体 解 体 調 査

区	項 目	上 部				下 部					T R	
		主 幹	1 年枝	2 年枝	計	0.5cm 以 下	0.6~1.0	1.1~2.0	2.1以上	根 幹		計
A	区	2377.5 ^g 14.5	5450.0 33.24	8566.3 52.25	16393.7	1911.3 18.63	1950.0 19.0	3097.5 30.19	1705.0 16.62	1597.5 15.57	10261.3	159.8
B	区	1881.3 15.46	3598.8 29.57	6687.5 54.96	12167.5	1557.5 19.35	1707.5 21.22	2412.5 29.98	895.0 11.12	1475.0 18.33	8047.5	151.2
C	区	2276.0 17.81	2384.0 18.65	8120.0 63.54	12780.0	1446.0 16.58	1872.0 21.47	2702.0 30.98	1183.0 13.56	1518.0 17.41	8721.0	146.5

第4表 主 枝 周 の 肥 大 状 態

No.	区	月 日	5 月 25 日	6 月 25 日	7 月 25 日	8 月 25 日	9 月 25 日	10 月 25 日	11 月 25 日	肥 大 量
			cm							
10	第一主枝(C区)		10.6	11.2	12.2	15.6	17.1	18.5	19.0	8.4
	第二 " (B区)		8.4	9.2	10.4	13.6	15.7	16.7	16.8	8.4
	第三 " (A区)		6.3	8.9	9.7	11.2	12.9	13.2	13.5	7.2
19	第一 " (C区)		8.5	9.1	10.0	12.3	14.0	15.0	15.0	6.5
	第二 " (B区)		8.9	10.4	12.0	14.8	17.0	17.5	18.0	9.1
	第三 " (A区)		8.7	11.0	12.5	15.4	16.9	17.7	18.2	9.5
23	第一 " (A区)		9.2	10.5	12.7	15.2	17.0	17.7	18.0	8.8
	第二 " (B区)		8.6	10.9	12.5	15.0	16.1	17.1	17.5	8.9
	第三 " (C区)		9.0	9.9	11.6	13.9	14.8	15.8	16.2	7.2
25	第一 " (A区)		8.5	10.7	12.4	14.6	16.0	16.8	17.0	8.5
	第二 " (B区)		8.2	10.0	11.8	14.3	16.0	16.6	16.9	8.7
	第三 " (C区)		8.5	9.2	10.5	12.6	13.9	14.6	15.0	6.5

Campbell's Early の 房 摘 み に つ い て

小 野 公 二 ・ 神 昭 三

(岩 手 県 農 試)

岩手県のぶどうは近年大迫町近辺を中心に年々増植され、生産量もうなぎ昇りに上昇して来ている。品種は大半がCampbell's Earlyでこれに若干DelawareとNiagaraが混っている。生産者は農業専業もあるが商業の側ら副業的にぶどう栽培を行っているのが半数近くもあり、栽培法についても技術的にも浅いので生産品についても、非常に果実の不揃いが目立っており、出荷はこれを共同で行い盛岡市場を対象とする共同選果・箱詰めを昨年から実施するようになった。未成木も多いが年々生産量も増し現在の一市場出荷から更に広範囲な県外出荷に市場

を開拓して行かねばならない所である。また一方生産量を殖やすとともに質的面の向上も考慮して行かねばならない。すなわち輸送に好適な房の目方・形・果実の固さ等を工夫し、生食用果実の新鮮味を保持させ荷傷みを最少限に止めるような果実の作りを考えて行かねばならない。これ等の点に付いて主にCampbell's Earlyについて行った試験を述べてみる。

1. 副穂の除去

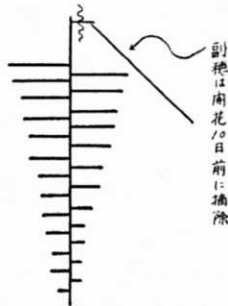
Campbell の果房はそのまま結実させると非常に巨大になるが、更に副穂をそのままに結実させると主穂と同

じ位の大きさになり、一結果枝に対する花数が多過ぎて花振いを起すことになり、また実際採取してこれを箱詰めする段になると非常に不便になる等の弊害から、遅くとも開花一週間前までに摘除するのが必要である。

2. 小穂の位置と着果率

Campbell の副穂は主穂に比べ遙かに着果率が悪く、しかも開花が遅れるため着色時期も遅れるのでこの副穂は摘除するので問題でないが、主穂に付いても小穂の位置によって着果率が異なる。

位 置	開花数	着果数	着粒歩合 %
1～5	70.4	38.3	53.9
6～10	37.7	16.0	42.9
11～15	22.1	9.3	42.6
16～20	13.9	6.5	42.8
21～25	6.2	1.9	27.6



第1表 小穂の位置と着果率

第1表のように1車から5車までが特に着果率が良く、先端の25車位が最も着果率が悪い。中間の6車から20車位までは花数の多少はあるが、着果率はほぼ同じである。このため着果率の悪い部分は予め摘除し開花を揃はせ、着色も一斉に行はれることになる。

3. 花房の摘除の強弱と果房の大きさ

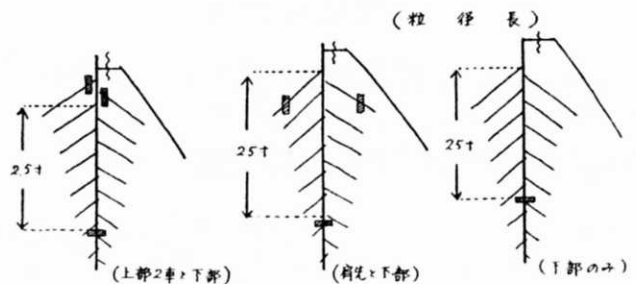
前調査から花房の下部を摘除すに際し、その強度を変えることにより如何に果房の形が異なるかを調査してみると第2表の通りで、開花直前に房長が3寸以上あるものについて行ったもので、強く摘除するもの程房重の少くなるのは当然であるが、反対に強く摘除するもの程1車～2車の小穂が長く伸びて来る。所謂肩張りの角張った房に変わって来る。着果率の悪い部分を強く摘除する程実止りも良くなって密着房が得られるが、このように肩張りで三角形になった房は箱詰めに不便ばかりでなく、互いの房の接触が強く荷傷みの原因にもなるので余り香しくない。これ等の点から花房は開花直前の長さで2.5寸から3寸程度に下部を摘除するのが適当に思はれる。

第2表 花房の摘果の強弱と果房の大きさ

区別	項目	房 巾 (cm)	房 長 (cm)	房 重 (匁)
1.5 寸区		10.8	9.3	64.0
2.0 "		10.5	11.7	75.3
2.5 "		10.2	13.8	78.4
3.0 "		9.3	15.0	82.4

4. 果房の整形について

前述のことから Campbell の採取・選果・箱詰め・輸送と順に考慮すると、第一に揃った房を採取する事であり次に花振いを少くして固房作ること、しかもその目方は70～80匁程度の物を狙い、形も極端な張りの少い円筒形に近いものが理想的である。バラ房で肩張りで割合目方のかかる房は輸送中に可成り荷傷みが生じることは思はれる。これ等の条件を揃へるような房を得ようと第1図のごとき処理を開花直前に大体房長3寸以上のものについて行った。副穂は開花10日前に一齐に摘除し、主穂についてのみ行った。その結果は第3表の通りである。すなわち①上部2車と下部・②肩先と下部・③下部のみの3つの方法が無処理に比較してみた。また処理後の房の長さが何れも2.5寸になるよう摘除した。この結果③着果良く目方も多いが肩が極端に張り丁度三角錐を逆さにしたような形になり、理想から可成りはなれた形である。①と②は大体同形であり最も理想に近い円筒形の固房が得られた。無処理は非常に長過ぎその割に肩の部分の張ったものである。



第1図 花房の摘除する位置

第3表 花房の摘除と果房の形

区別	項目	房 巾 (cm)	房 長 (cm)	房 重 (匁)
①上部2車と下部		8.6	14.6	79.7
②肩先と下部		8.5	14.2	70.9
③下部のみ		11.4	14.3	95.7
④無 処 理		9.0	16.9	70.0

結局 Campbell の果房は花振いを防ぐ意味で副穂を除き更に着果率を良くし、固房を作るために房の下部を一部摘除し、それに肩張りを防ぐために1～2車を摘むか1～2車の先端を摘む方法が輸送・荷傷みの点で効果的である。また目方を均一にするために開花直前の花房2.5寸位で摘むことである。なお①と②の方法に付いては、前者は割合花房の長いものに付いて、後者は幾分房の短いものに付いて行った方が労力的にも妥当と思はれる。